

『ソク・サバーイ！ 続カンボジア・サッカー見聞録～牛の  
向こうに未来が見える～』 Vol. 4

● J F Aサッカー1級審判インストラクター 唐木田 徹



CPL最終日。たくさんお客さんも入っています（入場券は1ドル）

みなさんこんにちは。

9月の「プチュンベン」（日本のお盆）が終わり、10月末から11月初めはシハモニ国王の誕生日、その父シハヌーク元国王の誕生日、そして「水祭り」と約1週間祝日が続きます。

カンボジアの三大イベントは、「正月（4月）」「プチュンベン」「水

祭り」です。このうち前者二つは、みな田舎へ帰るため、プノンペン  
はガラガラになります。車もモト（バイク）も少なく、店も軒並  
み閉まっています。あまりに静かすぎて怖いので、家に閉じこも  
ります。「水祭り」は、逆に田舎からドッと人が押し寄せてきます。お  
目当ては、王宮前で繰り広げられるボートレース（各地区の予選を  
勝ち抜いた精鋭）と夜ライトアップされた数々のイベントです。娯  
楽の少ないカンボジア人には、年に一度の楽しみなのでしょう。1  
00万人以上が集まるといいます（国の人口約1300万人）。すご  
い人混みとなるので、やはり外に出ずに家にこもります（特に夜は  
怖いからです）。



CPL最終日。縁石などをきれいにペンキで塗り直し

さて、今回はC P L (Cambodia Premier League) のお話です。

5月から始まったC P Lは10チーム2回戦方式。今年は上位4チームによってプレーオフが行われたため、全部で94試合となりました。リーグ戦90試合、プレーオフ2試合（1位－4位、2位－3位）を終え、いよいよ最終日3位決定戦と決勝戦です。

まずは3位決定戦。主審は若手の期待株。来年F I F Aに新規登録する審判を割り当てました。対戦はプレーオフで負けてしまった上位同士（リーグ1位－2位）です。1－1の前半終了間際、1位チームのコーナー近くでボールがタッチラインを割り、主審は1位チームボールをシグナル。しかし、副審が逆を指し、主審がすぐに笛を使ってシグナルを逆に修正。そのスローインからドリブル→センターリング→ヘディング→ゴール！となりました。私には最初の主審の判定が逆だと分かっていましたが、「まあ確かに逆を指したが、すぐさま修正したし笛も使ったので、とりあえずOK」と判断しました。そのあとのキックオフ直後、1位のチームがファールをし主審が警告を示したところ、何とチームマネージャーが選手を引き上げさせてしまいました。ちょうど2分のアディショナルタイムを4th が掲示した時です。主審には、そのような時の対処の仕方が

分からなかったのでしょうか。マッチコミッショナーのところへ行って、何やら相談。そして、相手チームに控室へ戻るよう指示して審判団も戻りました。私はてっきり打ち切りだと思ったのですが、20分後、何と両チームの選手が戻ってきます。審判団はそれから5分くらい後に戻り、後半が始まりました。??前半まだ終わってなかったんだけど??

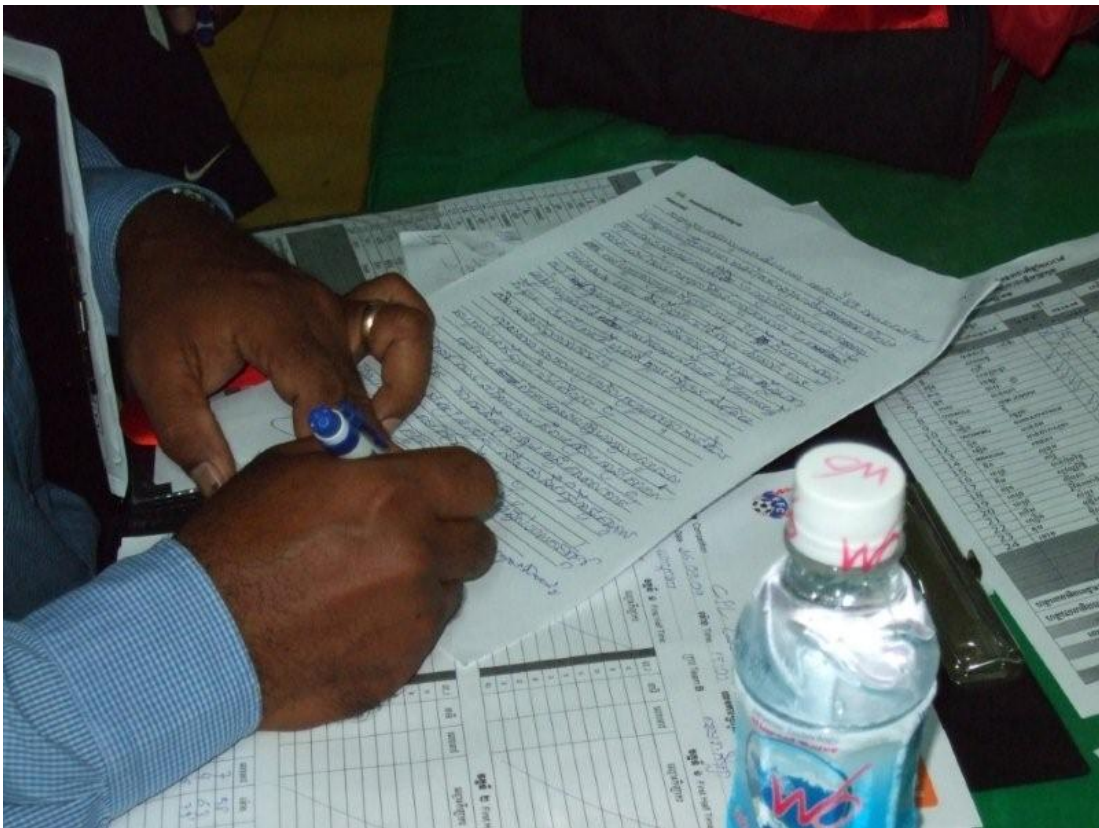
後半はスコアが動かずそのまま2-1で終了しました。試合後に、かのマネージャーが審判団と握手していたのでこれでOK???



念のため？兵士が審判控室を警護



そして決勝。主審は今年のベスト主審。副審は、やはり来年 F I F A 登録予定の若手を起用 (ベスト副審)。白熱した試合は延長戦へ。そこでまず、3 位チームのベンチスタッフが副審の進言により退席。つぎに 4 位チームが得点した際、チームメイトがユニフォームを被ったため警告 (これも副審の助言)。それが 2 枚目だったので退場。ジェスチャーから推察するに、「ユニフォーム脱いでないよ！こうやって頭に被っただけだよ！！！」と抗議している様子。それで充分ですよ。



退席、退場、報告書が大変

試合は2-1で終了。ところが、負けたチームのGKが猛然と主審に向かって突進！いったんはチームメイトに抑えられましたが、こんどは若手の副審に向かっていき胸を小突く暴挙。そういえば、私が昨年目撃した唯一の蛮行（主審に向かって挑みかかる）がこのGKでした。

何はともあれ、CPL2009は無事？終了しました。



試合後、ささやかなお疲れさん会（もちろん私が払います）

※『ソク・サバーイ』とは、クメール語で「元気です」「元気ですか？」（正式にはソク・サバーイ・テー？）の意。